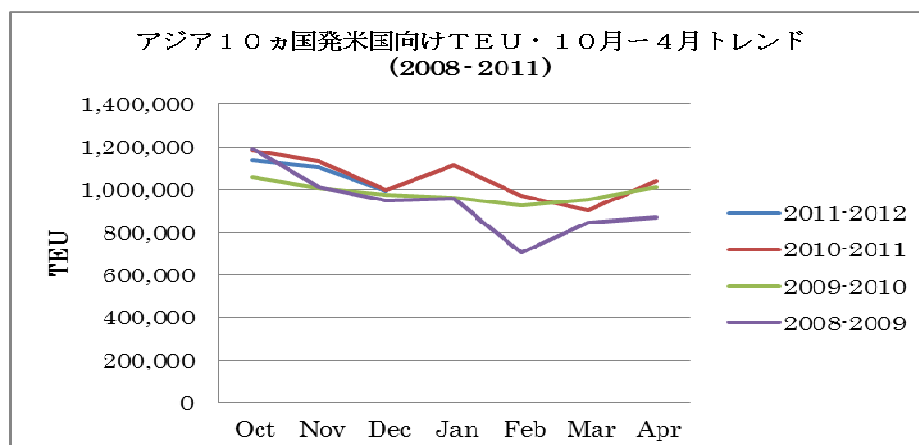


米国通関統計 12 月度実績及び年間ランキング速報

アジア発米国向けコンテナ 12 月実績は前年を 0.7% 下回る

2011 年通期実績は 1.5% 減の 1 千 3 0 0 万 TEU にとどまる



Source; Zepol -TradeIQ*

Zepol(ゼポ) Corporation (本社・米国ミネアポリス www.zepol.com) は、1 月 8 日、米国税関 AMS・B/L データを基に、米国海上輸入 12 月度実績をまとめ、同時に 2011 年度の国別ランキングも発表しました。

それによると、12 月はアジア主要 10 カ国発 TEU (B/L・Loading Port・母船積地ベース・実入り・FROB 含)は、991,500 と前年同期比で 0.7%のマイナス、2011 年通期でも 13,040,325 と前年度を 1.5% 下回る結果となりました。(表 1 参照)
米国全体では 19,784,328 TEU と前年を 1.2% だけ上回りましたが、ほぼ横ばいで終えたかたちです。米国輸入に占めるアジア 10 カ国のシェアは 2 ポイント下がり 66% になりました。(中国のシェアはアジアでは約 60%、全体では約 40%です)

国別では 1 位中国 2 位韓国が横ばいの中で、ベトナム(+32.5%)、マレーシア(+6.8%)の伸びが目立ち、ランキングも 7 位、9 位と夫々一つずつ上がりました。洪水被害の 8 位 タイも 1 2 月は 24%のマイナスでしたが通期では横ばいでした。韓国と同様にトランシップ比率の高い 3 位 香港、6 位 シンガポールが夫々 15.6%、9.3%のマイナスです。4 位の台湾は 2.8%のプラスですが表 2 の自国オリジン分では 11.3%のマイナスだったことが目立ちます。(表 1, 2 参照)

表1:アジア 10 カ国発米国向けTEU 12 月度と2011年間実績ランキング

(母船積地ベース・実入り・FROB 含)

順位 2011	アジア 10 カ国	12 月 TEU	前年比 (%)	前月比 (%)	1-12 月累計TEU 2011年間実績	前年比 (%)	シェア (%)
1	中国	581,875	0.3	-11.5	7,758,097	0.3	60
2	韓国	106,286	12.7	-12.9	1,363,134	-0.9	10
3	香港	82,622	-11.8	-10.4	1,147,798	-15.6	9
4	台湾	72,202	-3.6	-5.8	922,186	2.8	7
5	日本	52,971	-3.8	-3.4	630,577	-2.4	5
6	シンガポール	40,824	-3.6	-10.6	540,838	-9.3	4
7 (8)	ベトナム	18,413	11.3	-4.1	213,442	32.5	2
8 (7)	タイ	12,074	-23.9	-7.3	165,912	0	1
9 (10)	マレーシア	12,234	-10.8	-4.1	150,891	6.8	1
10 (9)	インド	12,004	0	-1.6	147,449	-5.2	1
	合計	991,504	-0.7	-10.3	13,040,325	-1.5	100
	米国全体合計	1,534,918	0.7		19,784,328	1.2	

() 2010 年順位

Source: Zepol TradeView

表 2:アジア 10 カ国発米国向けTEU 12 月度と2011年間実績ランキング

(荷受地ベース・実入り・FROB 含)

順位 2011	アジア 10 カ国	12 月 TEU	前年比 (%)	前月比 (%)	1-12 月累計TEU 2011年間実績	前年比 (%)	シェア (%)
1	中国	741,082	-0.5	-1.5	8,685,186	-1.6	67
2	韓国	62,852	2.8	-5.9	730,520	3.1	6
3	日本	57,524	-1.9	-1	658,951	1.3	5
4	台湾	43,781	-2.4	-2.5	528,418	-11.3	4
5	香港	43,430	-12.1	-12	525,065	0.6	4
6	ベトナム	40,348	-0.3	-5.4	468,177	2.4	4
7 (9)	インド	34,790	5.9	-2.7	398,891	11.5	3
8 (7)	インドネシア	31,295	-5.8	5.2	365,792	-1.4	3
9 (8)	タイ	26,869	-13.4	-13.6	349,394	-3.4	3
10	マレーシア	16,266	-5.9	-1.1	185,162	-9	1
	合計	1,098,237	-1.4	-2.6	12,895,557	-1.2	100

() 2010 年順位

Source: Zepol TradeView

表 1,表 2 の違いは、トランシップ (TS)をふくむ母船積地ベースと自国分を表す荷受け地ベースで、それぞれの国毎の差異がトランシップ分となります。

5位の日本と韓国の差はトランシップ分に表れていますが、同時に日本が3位、韓国が2位の自国部分の伸び率の差異が注目されます。(表1, 2, 参照)

日本直航分(-2.4%)では名古屋、横浜、大阪の減少が目立ちます。(表3参照)

韓国(釜山)は中国からのTS分のマイナスを自国分に加えて、日本、インドネシア、マレーシア、インド、その他各国分のトランシップの増加で横ばいを維持した形です。(表4参照)

表3: 米国直航分・日本港別 TEU 10-12月実績と2011年間実績ランキング

(母船積地ベース・実入り・FROB 含)

順位 2011	母船積出港	10月	11月	12月	1-12月累計TEU 2011年間実績	前年比 (%)	シェア (%)
1	東京	17,696	17,391	17,293	194,609	5.2	31
2	名古屋	14,477	14,794	15,225	163,981	-1.6	26
3(4)	神戸	9,503	9,571	9,089	108,299	6.9	17
4(3)	横浜	7,152	7,136	6,185	91,899	-23.6	15
5	清水	2,537	2,674	2,828	29,085	15.7	5
6(6)	大阪	2,014	1,307	578	20,835	-14.8	3
7(8)	博多	1,637	1,517	1,267	12,131	509	2
8(7)	仙台	0	0	0	3,127	-80.3	0
9	その他	521	436	507	6,611	24.9	1
	日本港合計	55,537	54,826	52,971	630,577	-2.4	100

() 2010年順位

Source: Zepol TradeIQ

表4: 釜山港TS・国別 TEU 12月実績と2011年間実績ランキング

(荷受地ベース・実入り・FROB 含)

順位 2011	荷受け港	12月 TEU	前年比 (%)	前月比 (%)	1-12月累計TEU 2011年間実績	前年比 (%)	シェア (%)
1	韓国(自国分)	46,857	6.4	-14.6	622,329	6.6	49
2	中国	37,762	24.1	-13.9	461,878	-8.2	37
3	日本	4,255	-6.9	-3.3	53,957	2.3	4
4(5)	インドネシア	2,433	202.6	14.7	23,786	27.6	2
5(4)	ベトナム	1,747	-1.5	23.9	21,830	-5.6	2
6(8)	マレーシア	1,575	330.8	-7.9	12,549	63.9	1
7(10)	インド	1,246	304.8	11.5	11,366	90.5	1
8	台湾	586	-45.1	-17.4	10,988	-33.6	1
9	フィリッピン	393	-36.3	-31.2	5,470	-20.5	0
10(7)	タイ	306	-33.6	-36	5,429	-32.8	0
11	その他各国	3,378	52.4	-5	34,871	25	3
	釜山発合計	100,538	15.2	-12.3	1,264,453	0.8	100
	韓国合計	106,286	12.7	-12.9	1,363,134	-0.9	

() 2010年順位

Source: Zepol TradeIQ

2011年の日本発の釜山港TS分は2.3%の小幅増でしたが、それを日本各港についてみると博多、広島、門司、細島、徳山からの減少に対する大阪、神戸、横浜からの増加に加えて、東日本大震災後の対応として新潟とその他港からの大幅増加が顕著に表れています。更に日本海側各港別に動きを2010年と比較してみるとその重さが裏付けられます。(表5,6参照)

表5:釜山TS分・日本港発TEU 10-12月実績と2011年間実績ランキング

(荷受地ベース・実入り・FROB 含)

順位 2011	荷受け港	10月	11月	12月	1-12月累計TEU 2011年間実績	前年比 (%)	シェア (%)
1	博多	950	1,065	940	17,239	-18.5	32
2	大阪	393	557	765	5,729	48.3	11
3 (6)	神戸	415	359	499	3,640	56.6	7
4 (3)	広島	368	402	393	3,518	-2.3	6
5 (4)	門司	212	193	169	2,586	-18.9	5
8 (10)	横浜	198	171	125	2,103	25.1	4
7 (5)	細島	245	118	143	2,100	-31	4
8 (22)	新潟	160	121	116	2,093	1.131	4
9 (8)	徳山	190	192	172	2,021	-2.2	4
10 (12)	東京	98	151	152	1,411	9.9	2
11	その他約40港	1,011	1,073	781	11,517	50.1	21
	日本TS合計	4,240	4,401	4,255	53,957	2.3	100

() 2010年順位

Source; Zepol TradeIQ

表6: 釜山港TS・日本海・北海道8港分の変化

(荷受地ベース・実入り・FROB 含)

2010年 順位	日本海・北海道 8港	2010年 TEU	2011年 TEU	前年比 (%)
1 (3)	苫小牧	736	932	
2 (2)	金沢	686	933	
3 (6)	富山	260	394	
4 (1)	新潟	185	2,093	1.131
5 (4)	直江津	159	852	
6 (8)	八戸	48	52	
7 (7)	敦賀	38	203	
8 (5)	秋田	24	672	
	8港合計	2,136	6,132	287.1

() 2011年順位

Source; Zepol TradeIQ

以上

** Zepol (ゼポ) トレードデータとは ???

- * Zepol TradeIQ は、米国税関から公表される AMS(Automated Manifest System) B/L 記載データを Zepol (ゼポ) が独自開発した検索エンジンによりデータベース化した米国貿易統計データで、輸入通関後約 1 週間で分析結果をオンラインで把握することができます。
- * 毎日約 3 万件に及ぶ全米各港からの B/L 情報が 11 月で (2003 年以來) **1 億件**。
ゼポのデータベースにユーザーほどのパソコンからでも簡単にアクセスし、検索・作表・ダウンロードが可能で、IT のパワーをフルに活用した社外リソースとして各業界・機関から評価されています。
- * ロジステック関連 IT ソリューション・プロバイダーとして、ゼポは 2011 年発表の “Top 100 Logistics IT Providers” にも選ばれています。
(www.inboundlogistics.com/lit/top100.shtml)
- * PC 画面上で B/L #, Shipper, Consignee, Ports, Carrier, Products, Weight, TEU などの個別 B/L 記載項目別のマトリックス分析が簡単に行えます。
- * 又、Container Type, LCL/FCL, Empty/Loaded, FROB 貨物、などの区分も簡単で目的に応じた分析が出来ます。
- * また、毎月、約 40 日後に発表される米国**商務省貿易統計**も、同じ検索エンジンを使い、コンテナ貨物、航空貨物について、重量・金額別、国別・米国港別に、HS 品目コード毎 10 桁までのマトリックス分析が**商務省発表の同日**に可能となりました。(Zepol TradeView)
- * ゼポのトレードデータ TradeIQ は**政府統計**としての情報価値に加えて、米国情報公開法により入手可能となっている通関時の**個別 B/L 記載データは見過ごせないファクト情報源**です。
- * **ゼポ**のクライアントは 1,300 社を越えポートオーソリティなども含めた海運・航空輸送関係に限らず、化学、食品、機械、電機、法律事務所など幅広い業界にわたっています。
例えば国別、港別の品目別トレンド画面から、すぐに同じ PC 画面上で荷主、相手港、輸入先、船社/NVOCC、品目・数量など**アクチャル情報への掘り下げ**を行い**アクション**に結び付けています。

速報性の高い統計分析ツールであると同時に市場競争の為の競合分析ツールとして活用されています。

クライアントの評価の声

“Zepol’s trade data tools play an important role in our operations. Not only do we target specific importers to grow our ports’ traffic, but we also examine a wide variety of markets to track trade lane usage and volumes to create timely, accurate market reports. TradeIQ™’s interface makes finding the information we need simple, saving countless hours. Zepol’s products are essential for any company in the international trade community.”

Marketing Director

East Coast Regional Port Authority

(和訳)

「ゼポのトレードデータ分析ツールは我々のオペレーションに重要な役割を果たして呉れている。港湾利用拡大に貢献して呉れる企業を見つけるだけでなく、多彩な業界動向が把握できるので、物流計画やタイムリーで正確な市場レポートの作成に活用している。

ゼポの TradeIQ を情報インターフェイスに使えると、必要な情報の検索が簡単にできることで、どれくらい時間の節約になっているか判らない位だ。ゼポの情報サービスは広く貿易業界に欠かせないツールだと思う」

米国東岸地区ポートオーソリティ

マーケティング担当ディレクター



www.Zepol.com

Over 100,074,460 B/L (Nov.28,2011)

本リリースの分析内容と Zepol (ゼポ) に関するお問い合わせ先：

日本：Zepol Japan mnanseki@zepol.jp